



実施者

- 《教 員》 千葉大学 特任専門員 / 地域コーディネーター 阿部 厚司
《学 生》 千葉大学大学院 融合理工学府 先進理化学専攻 物理学コース 2年 石井 和
千葉大学大学院 融合理工学府 創生工学専攻 デザインコース 1年 高原 弘祐
《協働パートナー》
【行 政】南房総市役所 市民課 市民協働グループ 【企業等】ヤマナハウス
【個 人】ヤマナハウス南房総三芳のシェア里山 代表 永森 昌志, 副代表 沖 浩志, マネージャー 溝口 耕一

1. 背景・目的・実施内容

私達はこれまで「ヤマナハウス冊子プロジェクト」と題した、南房総市の魅力を普及させることを目的とする活動を行ってきた。2021 年度は現地活動を通して南房総市は自然が豊かであるということが魅力であることを実感し、2022 年度はその魅力を普及させる具体的な活動内容を検討した。そして、昨年度は、交流拠点かつ自然のなかで自分のやりたいことができる施設である「ヤマナハウス」に関連する冊子を作成した。例えば、ヤマナハウスで観察できる生き物の図鑑や野草を用いた料理のレシピを載せることで生物の魅力を様々な側面から伝えた。そして、野外で活動する際の注意点をまとめることで自然があまり身近でないような人でも安心してヤマナハウスの活動に参加できるよう工夫を施した。昨年度の活動を通して、冊子の作成は無事完了させることができたものの、自然の魅力の普及という目的に対する冊子の効果や、冊子を最大限に活かす方法については、さらに検証・検討する必要があると考える。そこで、今年度は、冊子の効果を検証すること、そして、自然の魅力を普及させるための環境づくりに貢献すること、を目的として、ヤマナハウスの活動に定期的に参加した。

現地訪問は 2024 年 4 月～2025 年 2 月の期間中に計 11 回(4/13, 7/14, 8/11, 8/24, 9/7, 9/22, 10/13, 11/10, 12/21, 1/12, 2/23 : ヤマナハウスの定例会) おこなった。今年度の活動を通して、ヤマナハウスにおける冊子の必要性和、読者が自然に興味をもつきっかけになるという効果を確認するとともに、ヤマナハウスの関係者と共に自然の魅力を実感しやすい環境づくりに貢献できた。以下に活動の詳細を示す。

○冊子の効果の検証

2024 年 2 月にヤマナハウスへ納品された冊子は、2025 年 2 月時点で配布がほとんど完了しており、今年中に増刷が予定されている。冊子は、主に、見学者、取材者、イベントの参加者といったヤマナハウスの来訪者に対して配布され、一部はヤマナハウスの関係者が

主催するイベントで配布されている(図-1)。例えば、ヤマナハウスが保有する裏山で自然の豊かさを紹介するイベントにて参考資料として配布することで、口頭では説明しきれない自然の魅力を伝えることに成功した(図-2)。代表の永森様からは、「ヤマナハウスを説明するための資料や冊子としての役割を果たしている。さらに、里山や生き物に関する情報の啓発の用途も果たしていると考えられる。」という旨のコメントを頂いた。以上から、今回の取り組みは、ヤマナハウス、そして、南房総市の特徴である自然の魅力を普及させるうえで十分な効果を発揮したと考えている。

○自然の魅力を更に普及させるための取り組み

今年度の活動を通して、ヤマナハウスの裏山を安全に楽しむための環境を整えることができた。具体的には、2 年前に私たちが竹で作った階段が崩壊しつつあったため新たに作り直したり、急な斜面には新たに手すりを設置したりした(図-3)。また、裏山に更に人が集まるための環境整備を実施することができた。具体的には、多様な自然の風景を楽しんでもらうため新たな遊歩道の新規開設を進めたり、より多くの水生生物が生息できる環境を整備できるようビオトープを清掃したりした(図-4)。これらの取り組みにより、裏山の環境がより魅力的かつ持続可能なものとなり、地域の自然資源を活用した活動基盤の強化に寄与したと考えている。

2. 成果と課題

(1) 地域貢献面

作成した冊子が自然の魅力を普及するという点において確かな効果があつたことを確認するとともに、ヤマナハウスの来訪者が自然の魅力を実感できるような環境づくりに貢献できた点が成果として挙げられる。つまり、私達の活動が来訪者のヤマナハウスに対する理解を深めるだけでなく、地域の自然資源を活用したヤマナハウスの活動の基盤強化にも寄与したことが評価できる。一方で、ヤマナハウスは時間経過による変化が激しいため、定期的に冊子の情報



1 冊子がガイドブックとして使用されている。2 ツアーで冊子を用いて裏山の自然の豊かさを紹介した。3 裏山の階段に手すりを設置した。4 ビオトープを清掃している。

域学協働の工夫！

★ヤマナハウスの自然を紹介するイベントにガイドとして参加した。冊子を活用しながら自然の魅力を来訪者に解説することができた(図-2)。

★裏山をイベントで活用したヤマナハウスの関係者に環境整備について意見を伺った。その結果、裏山の整備で優先すべきことを認識しながら効率的に作業を実施することができた。

を更新する必要があると考える。そこで、今年の増刷のタイミングで一部内容をアップデートできるよう準備を進めている。

(2) 教育・研究面

ヤマナハウスのイベントで、冊子を活用して裏山の自然の魅力を解説できた。このことは、来訪者に対し、視覚的かつ具体的な形で自然の魅力を伝えることができ、自然への関心に直接つながるような冊子の活用法を具現化できた点が成果として挙げられる。一方で、読者が自然に興味をもつには、冊子の項目のひとつである「ヤマナハウスの生き物図鑑」を拡張させる必要があると考えている。現在はヤマナハウスでよく観察される計 20 種類の生物を掲載しているが、観察できる生物はさらに多様であるため、それらを網羅したコンテンツの提供が求められる。具体的には、オンライン上で生き

*表彰・マスコミ掲載など

ヤマナハウス | 「ヤマナハウス 里山ハンドブック」完成！～企画・制作はすべて学生メンバーで実施
<https://yamanahouse.site/news/2024/05/24/article12/>

物の追加情報や観察記録を共有するコンテンツを融合させるといった対策を検討していきたい。これにより、読者が冊子を入り口としてさらに深く自然について学べる環境を構築することを目指している。

3. 今後の展開

今後は、ヤマナハウスの最新情報を反映しつつ、読者に自然の魅力がより伝わりやすい冊子の制作に取り組みたい。具体的には、ヤマナハウスのマップといった内容を現在の情報にアップデートさせる、生き物図鑑をオンライン上でのコンテンツと冊子を融合させることで拡張を図る、といったことを検討している。さらに、裏山の遊歩道整備といった自然を気軽かつ安全に楽しめる環境づくりを意識しながら、冊子に留まらない自然の魅力を普及させる方法を模索していきたい。